

■部会名：高齢化・市民活動部会

■部会長（有識者委員）：佐藤 克之 委員

■市民委員：景山 奨 委員、岸本 佳廣 委員、小島 忍 委員、佐々木 愛 委員、  
佐藤 幸子 委員

■意見の概要

**[マトリックス作業中の意見]**

- 自治会をうまく利用することが非常に大きな意味を持つてくると思う。
- 豊幌地区から江陽中学校に行くスクールバスが毎日巡回しているので、それに乗せてもらえるようにして、中学へ行った後に市立病院などに寄ってくればみんな利用するのではないか。
- 何をやるにしても予算の制約があるので、部会の中で優先順位を考えていくことが重要で、その理由づけも必要である。
- 何でもかんでも要求して一つも実現されなければ意味が無い。一つでも二つでも実現可能性のあるものに絞り込んでいけば、我々の意見が市政に反映されたという充足感が残る。
- 市立病院の民間への売却という意見は、すぐに売却を検討すべきという意味ではなく、市の財政上どうしても維持できなくなったときに検討してはどうか、という意味である。
- デイサービスの送迎バスを利用し、学校の空き教室を使用して、月に何回か往診に医者が来るというようにすれば、迎えに来てもらえて、定期チェックを受けられて、給食を食べて帰る、という風に色々なことが一度に解決するので、モデル事業として実施してほしい。
- 民間バス事業者は医療専門バスというような事業をやってくれないだろうか。市立病院以外の各病院の前に停留所を設けてもらうとか。
- 病院や買い物の送迎をボランティア（有償）でやっている、という他市町村の事例がある。
- コーディネートする人が必要。個人個人で何かやりたいと思っても、核になる人がいないとなかなかうまくまとまらない。
- 全部の公園を整備するというのは無理なので、まずは一か所、障がい者に配慮したユニバーサルな拠点となるモデルの公園を整備してはどうか。
- 江別のまちのウリとして、子どもを産むところから育てる時期までをカバーする医療体制が必要ではないか。
- 各自治会がどのような活動をしているか市で把握し、活動が一番活発な自治会長を表彰するなどインセンティブを与えて自治会活動を活性化してほしい。お金を使わなくても、ランキングで名誉欲を刺激するとか、新聞でとりあげてもらうなど色々な方法があ

る。

- 高齢者・独居老人対策を考えると、町内会よりももっと小さい単位のコミュニティづくりが必要になってくるのではないか。
- コミュニティ活性化のためのイベント開催については、場所があってもマネジメントやコーディネートする人材がない。人づくりが必要だし、同時に特定の人がいなくても続けられる持続可能な仕組みづくりも必要である。